

夏ノ二裏

よし野のおくにまかりて木へこのもとにより
ふして詠しほどに風にしたかふ桜へさくらへ
ひまなく散へちりへかりて心ならぬ花のうは
ぎなにとなくなつかしくむかしも覚え
ければ

木のもとに旅へたびへねをすれは芳野へよしの山
花のふすまをきする春かせ
なかむとて花にもいたくなれぬれは
ちるわかれこそかなしかりけれ